

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172902702), 法人名 (有限会社 Freedom), 事業所名 (グループホームブランタンV ユニット1), 所在地 (旭川市9条通15丁目24番地), 自己評価作成日 (平成30年1月23日), 評価結果市町村受理日 (平成30年2月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの理念に沿って家庭的な雰囲気を持たず、利用者の尊厳を遵守し不安・不満の声に耳を傾け、その都度、ご家族と相談・ご協力をお願いし、少しでも不安・不満が軽減するよう努めています。健康管理の面でも、週1回のボランティアで行われている柔道整復師による施術のサービス・毎日昼食前の「あ・い・う・べ」体操を行っています。ご家族に利用者さんの通院ごとに現在の病状の結果報告をし、安心をして頂き、ご家族・利用者とのコミュニケーションを大切に、「その人らしさ」を基本に一人一人にあったケアを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou\_detail 2017 02 2\_kan=true&JigyosvoCd=0172902702-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年2月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ショッピングモール・コンビニ・公園・小学校・バス停に近く、利便性が良い2階建て2ユニットの事業所である。運営母体である法人は、高齢者福祉や介護の草分けとして、地域と共に歩んできた豊富な実績を生かし、職員研修・防災対策・健康管理を整備している。また、定期的に開催している運営推進会議では、フロー報告・地域との交流・行事予定と報告・防災計画等を検討し、業務の充実を図っている。管理者及び職員は、信頼関係と馴染みの関係の中で、事業所の介護理念『…家庭の雰囲気を大切に、一人一人の尊厳や人格を尊重し…』を基本とし、利用者と共に過ごす日々を大切にしており、季節を感じる外出行事や、日常的な散歩や買い物は、個々の希望にそって支援している。事業所内は、細菌やウイルスなどほとんどの微生物に対して殺菌効果がある次亜塩素酸ナトリウムで1日に2回消毒し、清潔で安全な共有空間となっている。事業所がもっている知識や技術を地域に還元しようと、中学生の実習として職場体験の受け入れや、事業所独自でゴミステーションを設置し地域住民に開放している。事業所の機関誌を町内で回覧するなど、地域に根ざした家庭的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いたホームを目指し、各ユニットに当施設の理念を掲示しているが、全職員が周知・実践しているところまでは行っていない。改めて理念の周知をおこなっていききたい。	『運営母体の理念』『運営母体の介護理念』『プランタンVの介護理念』は、事業所の案内書に明記しており各ユニットのリビングに掲示し、毎日の業務で確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会には属しているが、活動自体が乏しいのが現状。毎週金曜日のカラオケの際、町内会長が顔を出してくださるのを皆楽しみにしている。地元中学校の職場体験の受け入れも積極的に行い、ゴミステーションの設置にて地域に貢献している。	会社や商店の多い地域で、町内会活動があまり機能していないなか、事業所独自で、ゴミステーションを設置し地域住民が使える様にし、回覧版には通信の添付をして、事業所理解に努めている。中学生が職業体験で訪問し、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゴミ箱の設置・回覧板への通信掲載・毎年のBBQ祭りでの案内等、事業所としてアピールは行っているものの課題は多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、行事の予定や報告、健康管理の仕方、緊急連絡網の作成をする為、ご家族様をはじめ、地域包括支援センター・町内会長様・他施設の方・医療機関様に参加いただき、サービス向上のため意見交換を行っている。	2ヶ月に1度定期開催している運営推進会議では、利用者家族・町内会長・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告・地域との交流・フロア報告・防災計画等を話し合い、利用者の生活の質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の指導監査課・介護高齢課・保護課を積極的に訪問し、情報収集に努めサービスの向上に繋げている。また、積極的に地域包括支援センターへ指示を仰ぎ、問題解決に繋げている。	行政の窓口に出向き、事業所運営やケアサービスについて相談を行っている。地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回ミーティングと共に身体拘束委員会を開催。身体拘束が必要な方は、本人の身体・生命に重大な危険が及ぶ場合を想定し、ご家族様にしっかり説明、理解して頂いた上で書面による同意を得ている。玄関の施錠も夜間帯以外は施錠をしないケアの取り組みを行っています。	身体拘束廃止委員会で研修会や学習会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、夜勤専門職員にも通達を徹底し、マニュアルも完備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、ミーティング等で話し合う様になっている。毎日の業務の中で虐待に関する知識を高め、利用者様とのコミュニケーション、職員のストレスの軽減に努めている。ご家族の心労等に理解を示しながら、虐待に及ぶことのないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が他の職員に説明しながら復習するといった形で学習の機会を持ち、必要としている方に説明し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時などは書面・口頭による説明を行い不安や疑問の解決に努めている。充分納得されたうえで書面上にて契約などの合意の確認を得ている。またいつでも説明できる体制をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者等の意見を尊重し、ホーム全体の問題として考え、すぐに改善していけるよう努力している。	意見反映の機会を幅広くとらえ、事業所の相談窓口や外部機関の周知を徹底している。運営推進会議には家族が参加しており、第三者的な立場で意見を聴取できる場づくりに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見や提案を受け入れ検討し、良い事は実践に移している。日頃からの交流によりアイデアや意見が出やすい雰囲気作りを心掛け“なんでもトライできる”環境作りに努めている。	ミーティングや個別の相談の機会などで、職員の業務に対する意見等が出やすくしている。また申し送りや日常の業務で、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の希望や職員の家族の用事などの希望を優先してシフトを作り、対応できない場合には本人と納得するまで話し合う事になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の業務の観察を行い、現在の能力を把握。研修の案内やグループとしての勉強会は随時行い、本人の希望や力量に合わせて参加を促している。必要があれば勤務の変更を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での研修会や会議等、交流の場に参加、良いところは取り入れるなど刺激を受けている。地域包括主催の市内グループホーム交流会や家族会への出席も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を理解する為に、いつでも話ができる環境作りをし、不安や要望などの訴えを傾聴し、都度解決していくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員から積極的にコミュニケーションをとり、不安や要望などを聞き、都度話し合いをするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの不安、要望、などを聞き、必要な支援を相談しながら他のサービス利用も考え対応している。また、「その時」の解決だけではなく、将来も視野に入れた取り組みを提案していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に「出来ない事」をお手伝いさせて頂くということをお話し理解して頂き、残存能力や出来ることを維持していくための支援を行い、利用者様と共に達成感、喜びあう関係づくりを築くようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホーム通信を発行し、行事や表情・レク時の様子を報告をしている。また、面会時にも普段の様子を報告し、家族が困っている事、悩んでいる事も一緒に考え支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人がいつでも面会できる環境を提供している。また、家族や友人との外出も自由に行っていただけの様、職員同士の申し送りも徹底している。	近隣地域からの入居利用者も多く、結婚式の参加や昔馴染みの美容室に行き、以前からの関係の支援に努めている。事業所は市中心部から近く、交通の便も良いので家族や知人の面会が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・カラオケなどの参加にて交流を深めていただいたり、お手伝いにも積極的に参加を促し、楽しく有意義な生活をしていただけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後もこれまでの関係性を大切に、相談や支援に努めている。必要に応じて連絡をとることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を日常の会話や表情などから把握できるよう努めている。少しでも利用者が過ごしやすい環境を整え、本人の希望に添えるよう努めている。	日頃の会話・表情・行動等から、利用者の思いや意向の把握に努めている。フェイスシートやADL表を活用することで新入職員にも正しい情報が伝わるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人との会話や、家族の協力を得てアセスメントを行い、生立ちから現在までの生活歴の把握にて、フェースシートの充実に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身共に変化がないか、どんな訴えや行動が見られているか等、職員間でこまめにカンファレンスを行い周知に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見や希望を聴取し、職員間での現状報告を密に行いアイデアを出し合いながら、モニタリングやケアプランに反映させている。	利用者や家族の意見を計画に反映し、家族とともに利用者が望む生活が達成できるよう取り組んでいる。毎月のミーティングでモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙を介護計画書と連動した書式とし、次につなげ、見直ししやすいものとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内中心部へのアクセスが良い利点を活かし、早期通院・大型スーパー・公園への外出等、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族とよく相談し合いながら、馴染みの方との交流や今まで利用していた場所への訪問の継続を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を重視し、以前からのかかりつけ医をできるだけ継続受診できるよう環境を整え、個々の医療機関とも連携を取り合い適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者は古くからのかかりつけ医を受診しており、受診の送迎支援に対応している。事業所の看護師が利用者の健康を支え、柔道整復師による施術サービスを受けることができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の検温・バイタル測定・体調確認又排尿・排便確認を行う。気になる事があればすぐに看護師に相談し、適切な対応・早めの受診ができる態勢をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を迅速に行い、医療機関に出向いて相談やこまめな連絡を取るよう連携をとっている。退院後も経過報告等を行い、病院関係者との円滑な関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から、本人や家族から不安や要望を聞き良く話し合い、医療機関・看護師とも何度も協議を重ね、ケアを提供していきよう努めている。	契約時に重度化の指針で説明を行い、医療機関との連携体制を含み、重度化や終末期への方向性を文書で確認している。医療が必要になった場合についての話し合いを行い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応についてミーティング等で周知しているが、判断が困難な時は看護師・管理者・主治医等の判断を仰ぐようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定・日中想定、2パターンの火災避難訓練を行なっている。また水害時の避難計画を作成、まだ避難訓練はできていないが町内の施設・町内会との、水害・火災・地震等の災害の際に連携を取り合うための連絡網を作成している。	利用者参加で、昼夜設定の避難訓練を年2回実施している。火災通報装置・火災受信機・スプリンクラーが設置されており、緊急連絡網も整備し、備蓄品も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアをする際、個々に誇りや考え方が違う為、尊敬の念を忘れずに、言葉使いや対応に気を配り、声掛け・対応を行っている。	尊厳を大切にし、プライドを傷つける事がないよう配慮しながら支援している。個人情報ファイルは、職員だけが解る記号で表記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり表現の仕方が違う為、その都度、表情や行動、口調を読み取り、自己決定出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中である程度の日課はあるが、本人のペースに合わせている。他にどのように過ごしたいかはその都度可能な限り、一人ひとりの希望に沿った支援を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問理美容を利用し、服装も季節に合わせて毎日同じ物を着ないようスタイリングしている。また、化粧品の買い足し代行や、肌の保湿や補整にも日ごろから気を遣っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人に適した食事形態で提供。食器拭きや下膳などのお手伝いをしていただく。また、季節料理や調理レク等の提供により、召しあがっていただくだけではなく、参加する喜びも感じていただきながら、視覚・嗅覚・味覚で楽しんでいただける工夫を行う。	食事の下ごしらえや盛りつけを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。誕生日には、食べたい料理を確認し反映している。お菓子作りレクレーションで、自分で調理する喜びも味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やジュースをゼリーにして召し上がっていただくなどの工夫を行っている。食事・水分量を把握し、必要に応じて特別食の加工を取り入れ、個々に合った食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日夕食後義歯の洗浄を行なっている。声掛け・介助にてうがいや・ブラッシングが定期的に行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめな排泄誘導を行い、個々のリズムを把握しながら失禁防止への対策を行っている。テープ止めの使用の減少に努めトイレでの排泄を目標に支援を行っている。	身体的状況や心理的な負担を検討しながらトイレ誘導の方針を話し合い、個別支援をしている。各居室にトイレが設置されており、仕切りがないので利用者や家族と相談して、家具の配置で見えない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師・病院との連携を密にし、腹部マッサージや水分量確保、下剤の調整などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時・時間は決まっているが、体調やその日のコンディションに合わせて、出来る限り利用者の意向に沿った入浴ケアを行っている。	リラックスして入浴できるように一人ひとりの希望に合わせた入浴支援をしている。また羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。入浴拒否傾向の利用者には、気分を変えたり声かけの方法を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体調や希望に応じて休息して頂いている。夜間巡回をこまめに行い、室内環境を整え、安眠できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬一覧表にて利用者が現在服用している薬を把握している。薬に変更がある場合は口頭・文章にて申し送りを行い、情報の共有に努めている。薬セット時・服薬時・共に2名体制でダブルチェックを行い、誤薬への対策を行っている。新人職員は入社から概ね2ヶ月間は服薬の支援は行わず、その期間中に利用者の薬について理解できるよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの入居前からの生活習慣を大切にし、喫煙や散歩などの支援を行っている。生活していただける上で、様々なお手伝いに携わっていただき、役割をお願いすることで、責任感や連携による達成感を感じていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションにてショッピングモールや娯楽施設への外出を行っている。その他にも、散歩に出掛けたりと、気分転換していただける支援を行っている。	散歩・ドライブ・外気浴等、一人ひとりの希望に添って戸外に出るよう支援している。暖かい季節にはホーム前にイスを置き、日光浴をしながら談笑をしている。事業所の行事としても戸外での催しごとが計画的に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される場合は、少額をご自分で保管・管理していただいている。その他は金庫にてお預かりさせていただき、必要時にお使いいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引くことも可能（現在は居りませんが以前はいらっしゃいました）。携帯を所持されている方もいらっしゃる。ホームの電話も利用者の使用可としている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた室内装飾を行い、居心地良く快適な共有スペース環境を目指している。席替えもこまめに行い、環境や気分をリセットしていただけるよう対応している。ソファで過ごして頂くなど共有スペースの有効活用に努めている。	リビングには利用者手作りの貼り絵やカレンダーなどの作品を飾り、整理整頓され居心地のよい共有空間となっている。事業所内の消毒は、ウイルスや細菌に効果を発揮する、弱酸性次亜塩素酸水を使い清潔保持に心掛けている。玄関には飲み物の自販機を設置し、買い物の楽しみの支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外は座席をフリーとし、より多くの方とコミュニケーションをとっていただけるよう配慮を心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品をホームで継続使用できるように受け入れの工夫を行い、より快適なスペースで生活していただけるよう努めている。	利用者の居室は、家族とともに危険個所がないかなどの点検を行い、安全に居心地良く過ごせるよう支援している。皆が集うリビングから離れていることもあり、静かで落ち着ける環境にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置・段差をなくし完全バリアフリーにて、安全に生活していただける環境を整備している。利用者の状態やニーズを反映させながら、ホーム内部の修繕・改善を行うよう努めている。また、必要に応じ自助物品を貸し出し、歩行状況の改善や、残存機能の維持をサポートしている。		